

和歌山県立紀伊風土記の丘は、特別史跡岩橋千塚古墳群とその周辺環境を保全管理するため昭和 46 年(1971)に開園した博物館施設で、本年開館 50 周年を迎えた。

その中核施設である資料館は、実業家松下幸之助の寄附により昭和 46 年に竣工した。設計は岡山県を中心に活躍した建築家浦辺鎮太郎が代表を務める浦辺建築事務所であった。

資料館は鉄筋コンクリート造平屋建地階付で、古墳群のある丘陵の周辺景観に配慮し、ボリュームを抑えた外観とする。モダニズムを基調としつつも、大面取りされた柱形や、伝統的な腰長押を模した水切が和風を思わせる意匠である。また、地元特産の紀州青石を一面に貼り付けた外壁や銅鐸を模した面格子等により、地方性や施設の性格が表現された特徴ある意匠となっている。

和歌山県では著名建築家が手がけた近現代建築の作品は少ない中で、周辺の景観に溶け込むこの資料館は、造形の規範となる貴重な文化財である。



旧上秋津小学校校舎(秋津野ガルテン) 田辺市上秋津字平岡 4558 番地 8 登録基準（一）

県南部の農村地域である上秋津地区に位置する田辺市立上秋津小学校の旧校舎で、小学校移転後に公益社団法人上秋津愛郷会が旧校舎及び土地を購入した。平成 20 年度から、農業法人株式会社秋津野が都市と農村の交流施設「秋津野ガルテン」として活用している。

旧校舎は昭和 28 年(1953)に建設され、木造二階建、切妻造、瓦葺で、外観は下見板張りとする。内部は片廊下式で、北側に廊下を通して南側に各室を並べる。

校舎二階北側の中央付近から通路を突き出し、背面側の丘上への避難路を確保するほか、木造校舎でありながらも鉄筋コンクリート製の境界壁と防火用の鉄扉を設けて防火面を強化し、また、教室や廊下の随所に用いた方杖や筋交いによって構造面を強化するなど、防災を重視した造りが特徴的である。

この旧校舎は小学校校舎としての役目を終えた現在も、地域の取組みによって都市農村交流施設として活用され、地域の歴史的景観の形成や地域の活性化に寄与している。



登録有形文化財（建造物）とは

文化財登録制度は、近代を中心とする多様かつ大量の文化財を保護するため、平成 8 年の文化財保護法改正によって導入された。指定文化財とは異なり届出制を基本とする緩やかな保護制度で、登録により規制に強く縛られることはなく、建造物の様々な活用を行いやすいことが特徴である。原則として建設後 50 年を経過した建造物のうち、一定の評価*を得たものが対象となり、全国で既に 13,000 件を超える建造物が登録されている。

- ※登録基準
- (一) 国土の歴史的景観に寄与しているもの
 - (二) 造形の規範となっているもの
 - (三) 再現することが容易でないもの